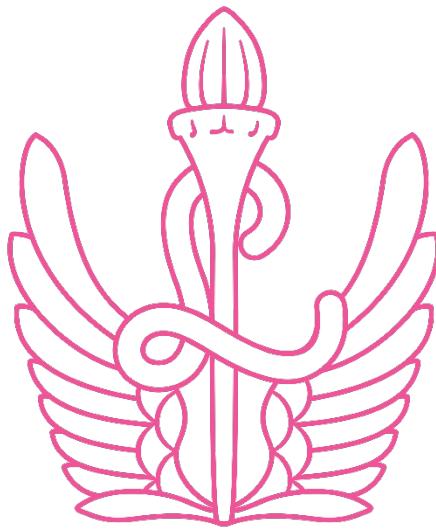


社会連携白書

2024

分析対象期間：2024 年度



2025 年 11 月 13 日

東京外国語大学

社会連携マネジメント・オフィス

目次

はじめに	3
2024 年度社会連携事業の総括	3
オープンアカデミー	8
・オープンアカデミーアンケート結果	11
オンライン日本語講座（OPJLC）	18
TUFS Cinema	20
多言語版・漢字学習アプリ「たふマルリン」	23
言語文化サポーター事業	25
外部機関との連携事業	28
多文化共生活動助成事業	30
アラムナイ事業（同窓生情報システム）	31
体育施設の外部貸出し	33

はじめに

少子高齢化やグローバル化が進む中、大学は教育・研究機関であると同時に、地域の課題解決や活性化に寄与することが求められています。本学では、社会連携マネジメント・オフィスが中心となり、異なる言語と文化背景を持つ人々が共生する社会の実現に向けた取り組みを企画・実施しています。本白書を公開し大学が実施している社会連携活動の内容やその成果を可視化することにより、地域住民や自治体、企業の皆様との信頼関係を強化し、さらなる協力や支援を得る基盤を築きたいと考えています。

本白書では、2024年度に新たに開始した活動や大きな進展が見られたプロジェクトを中心に、社会連携の事例をいくつか紹介し、それに統いて事業を実施することで得られたデータを報告します。

2024年度社会連携事業の総括

2024年度に新たに取り組んだ主な社会連携事業は、次のとおりです。

■むさしの学園小学校と交流協力の覚書を締結

2025年2月27日（木）、本学は、むさしの学園小学校（東京都府中市）と教育活動の向上を図ることを目的とした交流協力の覚書を締結しました。（発効は2025年4月から3年間）

むさしの学園小学校から青木洋介校長と大内美和子教頭が来学し、本学から林佳世子学長、木下孝洋理事、椎野若菜准教授（アジア・アフリカ言語文化研究所）が出席しました。

懇談の席では、本学の概要についての話から始まり、多様な文化背景を持つ両校の児童や留学生が楽しく交流できるような企画を行っていきたい、という意見が双方から出されました。

むさしの学園小学校は、本学から徒歩圏内にある私立小学校です。近年、本学のフィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）が小学生向け多文化理解ワークショップを開催するなどして、同小学校との交流を図ってきました。今回の覚書締結を機に、むさしの学園の小学生向けイベントや、親子で集うイベントの企画をさらに推進していく予定です。

■島根県出雲市と包括連携協定を締結

2024年12月3日（火）、本学は島根県出雲市と包括連携協定を締結しました。今後、文化、教育、国際交流、地域活性化等の分野において相互に協力、連携することにより、将来を担う人材の育成及び地域社会の発展に寄与することが期待されます。今回の協定の最大の目的は、大学院生及び若手研究者の多様なキャリアパス形成に資する活動拠点として、出雲市と協働していくことになります。本協定に基づき、本学若手研究者が出雲地域に一定期間滞在して課題発見や知的探求を行う予定です。出雲地域の持つ「文化的多様性」と本学の若手研究者の持つ「世界の言語・文化研究の強み」が重なり合うことで、地域創生のモデルを創り出す計画です。

■日本郵政株式会社と連携・協力に関する基本協定を締結

2024年4月1日（火）、本学は日本郵政株式会社と連携・協力に関する基本協定を締結しました。

日本郵政株式会社は、昨年8月に東京都府中市と「スポーツ振興等に関する協働協定」及び「地域活性化に関する協働協定」を締結しました。それをきっかけとして、同じ府中市にキャンパスを構える本学と、昨年12月に日本郵政グループ女子陸上部と本学陸上競技部の「合同練習に関する連携協定」が締結され、さらに拡大して今回の協定を締結することになりました。

地域への貢献、国際文化交流の推進及びスポーツ交流の推進等に幅広く寄与することを目的としています。今後、本学と日本郵政は、本学の学生・教職員、近隣住民等を対象としたスポーツスクールやスポーツ講演会等の共同企画・実施、当該イベントへの当社女子陸上部の選手（OG含む）・スタッフの指導者や講演者としての派遣、当社女子陸上部の外国籍選手と本学の学生等との国際交流の機会提供等の取り組みを通じて、つながりの創出と地域社会の活性化に貢献してまいります。

■日本語能力評価方法の改善のための調査研究報告書完成

2023～2024（令和5～6）年度文部科学省委託事業として実施した「日本語能力評価方法の改善のための調査研究」を完了し、その報告書および5点の成果物を取りまとめ、公表しました。

本研究は、文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等（以下、「多文化多言語の子ども」）の言語能力把握の充実に資することを目的としました。そのために、以下の3つの柱に取り組みました。

- ①能力記述文（CAN-DOリスト）の作成と量的検証：義務教育から高校段階までの発達に対応した「思考・判断・表現を支える包括的なことばの力（複数言語での力）の発達ステージ」と「日本語固有の知識・技能の習得ステップ」別の能力記述文を科研での研究成果を生かしながら作成し、妥当性を検証しました（多相ラッシュモデルによる統計解析）。
- ②「ことばの力のものさし」の実践的検証：上記①をまとめた「ことばの発達と習得のものさし（ことばの力のものさし）＜暫定版＞」に基づき、教育現場での評価と実践の効果を検証しました。
- ③普及・活用ツールの開発：①と②を経て開発された「ことばの力のものさし」を、教育現場で円滑に活用していただくための研修動画および冊子を作成しました。同時に、高校段階まで対応できるためのDLAの改訂にも取り組みました。

本研究の成果として、本報告書に加えて、以下の5点を研究成果物として文部科学省に期日までに納品しました。

- (1) 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」（ことばの力のものさし）実践ガイド
- (2) 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」（ことばの力のものさし）パッとわかるまるわかりガイド編（リーフレット）
- (3) 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメント DLA
- (4) DLAの実施方法を示した研修用 DLA動画「DLA ワンポイントレッスン」（DLA「はじめの一歩」「聞く・話す」「読む」別の動画）
- (5) 効果的な授業実践例を収めた教育実践動画

上記（1）～（5）の成果物は、2025年6月23日に文部科学省から一般公開されました。また、報告書についても、当センターのホームページで公表しています。2025年度からは、これらの成果物が教育現場で広く活用されるよう、普及・啓発活動に注力しています。

■体育施設の貸出し開始

2024年度から本学では、地域住民の皆様のスポーツを通じた健康な生活の一助となるよう、学内の授業、行事、学生団体の活動に支障をきたさない範囲で、体育施設の貸出しを開始いたしました。貸出施設はテニスコートと人工芝グラウンドです。2024年度は2件貸出実績がありました。

2024年度に実施した社会連携事業（上記を含む）は、次のとおりです。

■多言語多文化共生センターによる事業

事業名	事業概要	2024年度のTOPICS
TUFS多文化共生活動	教員による多文化共生活動の助成	2つの活動の助成を行った。 ・日本の大学で学ぶ留学生の日本での就職に関するラウンドテーブルの開催 ・第3回アラビア語朗読コンテスト
司法通訳養成講座	青山学院大学と共同で司法通訳養成講座を開講	24年度は開講なし
医療通訳養成講座	東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）の協力を得て医療通訳養成講座を開講	一次審査、2次審査を経て受講者の決定受講者：英語12（99）名、中国語14（30）名、ベトナム語4（8）名 ※括弧は応募者数 開講は2025年4月
株式会社ファーストリテイリングとの連携	「新卒外国人従業員向け日本語研修」「海外大学向け日本言語・文化研修」の提供	・新卒外国人従業員向け日本語研修 24年入社組 (インド人・ベトナム人) 24名が受講 ・海外大学向け日本言語・文化研修 日本文化研修3大学 206名が受講 (インド2大学・ベトナム1大学)
言語文化サポーター	公共機関等に本学卒業生等で組織した言語文化サポーターを派遣	弁護士会、学校、病院からの依頼30件に対してサポーター29名を派遣
TUFS Cinema	世界諸地域の社会・歴史・文化などの理解を深めることを目的に上映会・トークセッションを実施	上映会・トークセッションを17回開催し、3,416名が参加
東京地方検察庁公安部との連携	覚書に基づき、通訳人の育成等を目的として連携	24年は派遣なし
警察庁・警察大学校との連携	本学から警察大学校の講義への講師派遣	警察大学校の「国際協力課程」の講義に金悠進講師を派遣

DLA 普及事業	DLA 普及のために関連資料を公開、自治体等での研修の実施	自治体などで 8 回の研修を実施
日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業	多文化多言語の子どものことばの力を包括的に捉える評価の枠組み「ことばの力のものさし」の開発と、その活用を促進するための研修動画等の周知資料の作成	「ことばの力のものさし」を開発し、教育現場で円滑に活用していただくための研修動画および冊子など計 5 点の成果物を納品
JSL 高校社会科教材プラットフォームの作成事業	大学入学を目指す留学生、都立高校で学ぶ JSL 社会科教材プラットフォームの作成	「歴史総合」「地理総合」「公共」「日本史探求」の 4 教科の教材の提供に向けてページの完成
たふマルリン（漢字教材アプリ）の開発	外国につながる子どもたちのための教材のアプリ化	2024 年 6 月コンテンツサーバ移行完了
群馬県太田市との連携	ポルトガル語語劇公演の実施を検討	協定書案の検討及び 2025 年 11 月末～12 月初旬の語劇上演に向けての準備
講演会・セミナー	「世界知」を発信する機会として講演会・セミナーを開催	VOLASpecial 6 回、ボラたいむ 6 回開催 5 月 PAL 国際保育園にてボランティア説明会実施 6 月説明会実施～JICA 青年海外協力隊を通じたキャリア構築～

■ その他

事業名	事業概要	2024 年度の TOPICS
オープンアカデミー事業	市民に対して生涯学習の場を提供	389 講座 63 言語の講座を開設し、5,804 名が受講
ウクライナ現地の日本研究学生向けオンライン日本語学習支援	ウクライナの大学で日本語学科に在籍している学生に対し、オープンアカデミーオンライン日本語講座の日本語講座及び日本教養講座を無償提供	日本語講座 240 名、日本教養講座 21 名受講
三井物産株式会社との連携	「日本人従業員向けロシア語研修」「言語力測定テスト（オンラインテスト）」の企画及び実施	・日本人従業員向けロシア語研修 派遣後研修 4 名受講 派遣前研修 1 名受講 ・多言語レベルチェックテスト 7 言語（トルコ、ペルシャ、ヒンディー、タイ、インドネシア、ベトナム、ベンガル）15 名受講

東京都立立川国際中等教育学校附属小学校との連携	英語教育成果検証実施及び運営事業	英語教育成果検証のためのテストを作成、実施、検証結果分析を報告
独立行政法人国際協力機構（JICA）との協定	ヨルダン日本語教育普及事業	長期派遣隊員 1名、短期派遣隊員 2名を派遣
体育施設の外部貸出し	学内の体育施設の学外への貸出し	貸出実績 2件
東京都立立川国際中等教育学校附属小学校との連携	多言語教育への留学生の派遣	多言語教育の授業に留学生 5名を派遣
むさしの学園小学校との連携	教育活動向上を目指した交流、協力	教育活動の向上を図ることを目的とした交流協力の覚書を締結
島根県出雲市との連携	文化、教育、国際交流、地域活性化等の分野における相互協力及び連携	文化、教育、国際交流、地域活性化等の分野における相互協力及び連携相互協力及び連携の協定書を締結
アメリカンスクールインジャパン（ASIJ）との連携	文化、教育、国際交流、地域活性化等の分野における相互協力及び連携	協定書締結に向け調整中
日本郵政株式会社との連携	地域への貢献、国際文化交流の推進及びスポーツ交流の推進	連携・協力に関する基本協定を締結
近隣自治体との連携	協定に基づいた社会連携活動の実施	(府中市) 連携講座に篠田教授と吉崎特任教授を派遣 白糸台小学校職場見学会実施 (調布市) ドルトン東京学園中等部職場インタビュー実施 (三鷹市) 三鷹ネットワーク大学推進機構理事会出席

オープンアカデミー

■事業概要

本学が専門とする言語や地域文化を中心に幅広く（年間およそ 400）、生涯学習の場として講座を開催しています。

■分析対象

2024 年度のオープンアカデミー受講者

■平均的な出願者像

データ分析の結果分かった平均的な 2024 年度のオープンアカデミー受講者像は、次のとおりです。

- ・年齢：46.5 歳（最年少 7 歳、最高齢 98 歳）
- ・性別：女性（全体の約 69%）
- ・居住地：関東地方在住

■分析項目

1. 講座数・言語数・受講者数
2. 年齢
3. 性別
4. 居住地

■受講者分析

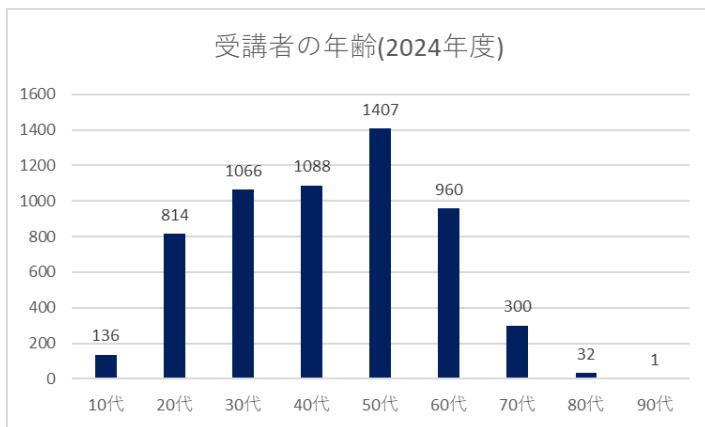
【分析1 講座数・言語数・受講者数】

■2024年度の講座数・言語数・受講者数（）内は2023年度

講座数	389 (395)
言語数	63 (64)
受講者数	5,804 (5,166)

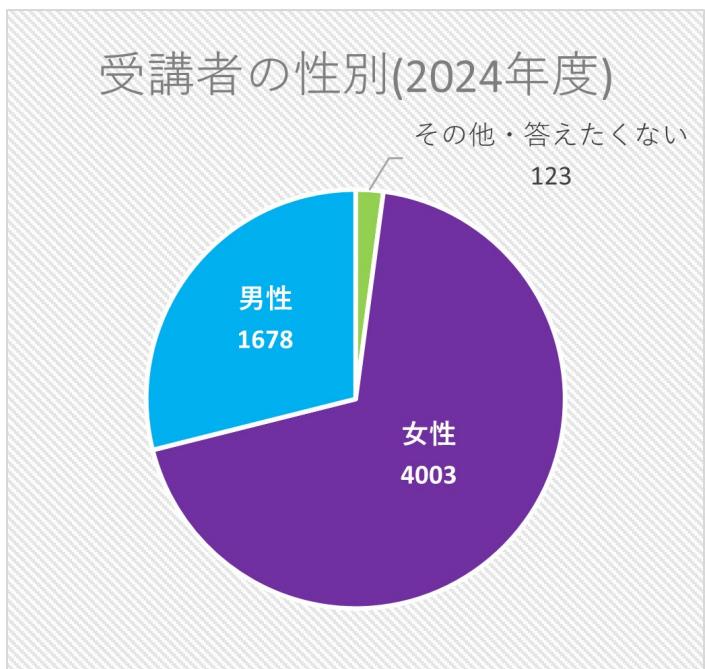
2024年度はオープンアカデミーとして63言語 389講座を開講し、受講者は5,804名であった。前年比講座数が、6講座減少しましたが、受講者数は638名増加しました。

【分析2 年齢】



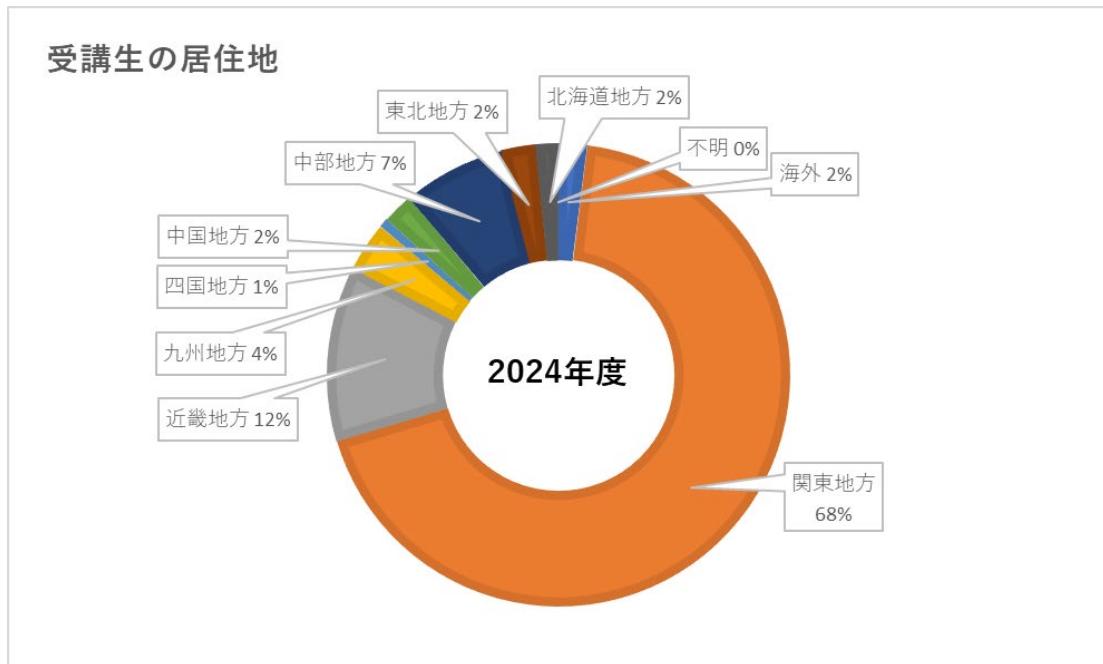
10代から90代の幅広い世代が受講しています。特に40代と50代の受講者が多く、それぞれ1,088名および1,407名となっています。また、30代(1,006名)および60代(960名)の受講者も比較的多く、本講座の支持層が30代から60代の層であることが見て取れます。

【分析3 性別】



講座受講者の男女比は、女性が4,003名で全体の約69%を占め、男性の1,678名(約29%)の倍以上となっており、本講座の支持層が女性であることが見て取れます。

【分析4 居住地】



2020 年度に「対面開講」から「全講座オンライン開講」に完全移行したことにより、全国のみならず海外にも受講者が多数います。ただし、「全講座オンライン開講」となった後も関東からの出願者が 68%を占めており、関東以外の地域への講座の周知が課題であると考えられます。

オープンアカデミーアンケート結果

■分析対象

2024 年度 春・夏・秋学期受講者アンケート（アンケート回答数 1,770）

春教養 81 名、春語学 667 名、夏教養 110 名、夏語学 235 名、秋教養 92 名、秋語学 585 名

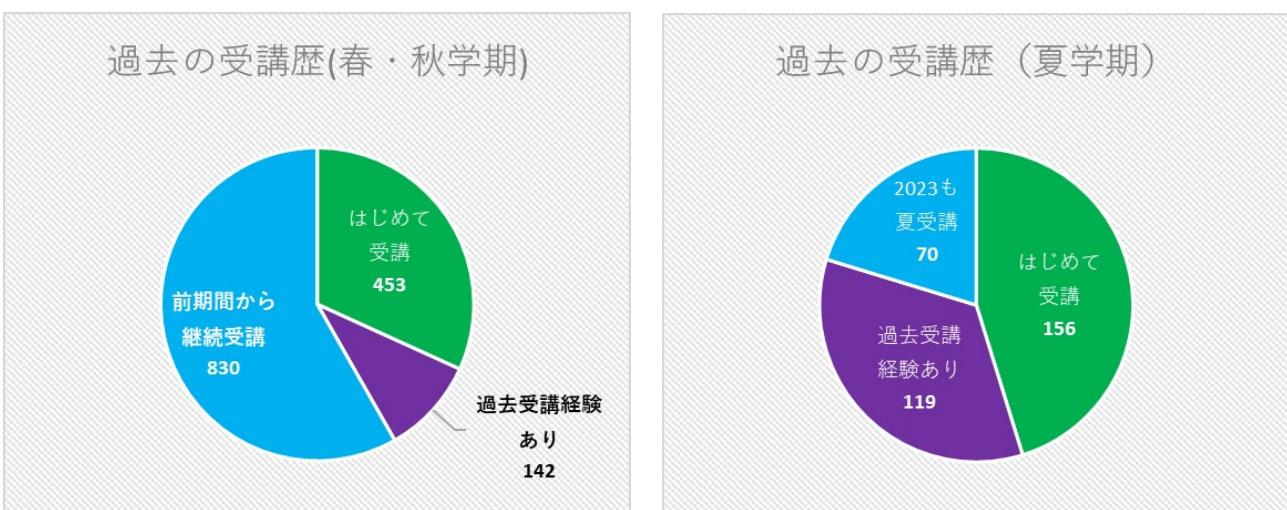
■分析項目

1. 過去の受講歴
2. 講座を知ったきっかけ
3. 受講動機
4. 本学のオープンアカデミーを選択した理由
5. 満足度（授業内容）
6. 満足度（講師、教材）
7. 満足度（実施形態）
8. 満足度（全体）

■分析結果

【分析1 過去の受講歴】

本学のオープンアカデミーの過去の受講歴に関する設問に関しては、長期講座の春・秋学期と短期集中講座の夏学期で分けて分析を行う。



長期講座（春期間・秋期間）の語学講座は、基本的に前期（I）と後期（II）の通年となっており、言語により各期間に初学者が学べる講座を設けるようにしている。そのため、春・秋学期の受講者の中では、「前期間から継続受講」している者の割合が最も高く、全体の 58% にあたる 830 名でした。一方、「はじめて受講」した者も 453 名お

り、全体のおおよそ 1/3 を占めています。夏学期については、「はじめて受講」が全体の 45%（156 名）、「過去に受講経験あり」が 34%（119 名）、「2023 年も夏受講」が 20%（70 名）と「はじめて受講」の割合が最も高かいです。このことから、継続的に受講者のニーズに応じたプログラムの充実が求められると同時に、初めて受講する者へのサポート体制の強化が受講者増加のために重要です。

【分析 2 講座を知ったきっかけ】

「講座を知ったきっかけ」を問うアンケートの集計結果は、次のとおりである。

知ったきっかけ	回答数
本学/OA公式HP	1065
知人、家族から	299
OA公式X	108
SNS広告	96
本学以外のHP,SNS	88
講師からの情報発信	29
ネット検索	22
OA公式FB	17
新聞等メディア	16
OA事務局からのお知らせ	12
チラシ	8
不明	6
その他	4
総計	1770

「本学/OA 公式 HP」「OA 公式 X」「OA 公式 FB」などの公式ホームページや SNS 経由での認知が 1190 件と、全体の 67%を占めています。これは、大学のホームページ、SNS が効果的な広報効果を示していると言えます。一方、「SNS の広告」経由で認知は 96 件で全体の 5%、「チラシ」経由で認知は 8 件で 0.4%にとどまっており、広告費の投入効果について今後慎重に検討する必要があります。

【分析3 受講動機】

「受講動機」を問うアンケート（複数回答可）の集計結果は、次のとおりである。

回答	回答数
当該言語が使用されている地域への興味	860
語学力の向上	786
教養の向上	716
新しい言語習得への好奇心	708
学習の習慣化	360
余暇の充実	336
文化、歴史など講義で取り上げる地域への興味	165
仕事で必要	164
家族・知人等が使用する言語のため	158
受講仲間との交流による学習意欲向上	155
その他	72
合計	4480

最も多い回答は「当該言語が使用されている地域への興味」で、860件でした。次いで「語学力の向上」が786件、「教養の向上」が716件でした。これらの結果から、受講者が主に言語やその地域に対する興味、教養を高めることを目的として講座に参加していることが伺えます。一方「仕事で必要」との回答は164件にとどまり、仕事目的での受講は比較的少数派であることが明らかとなりました。

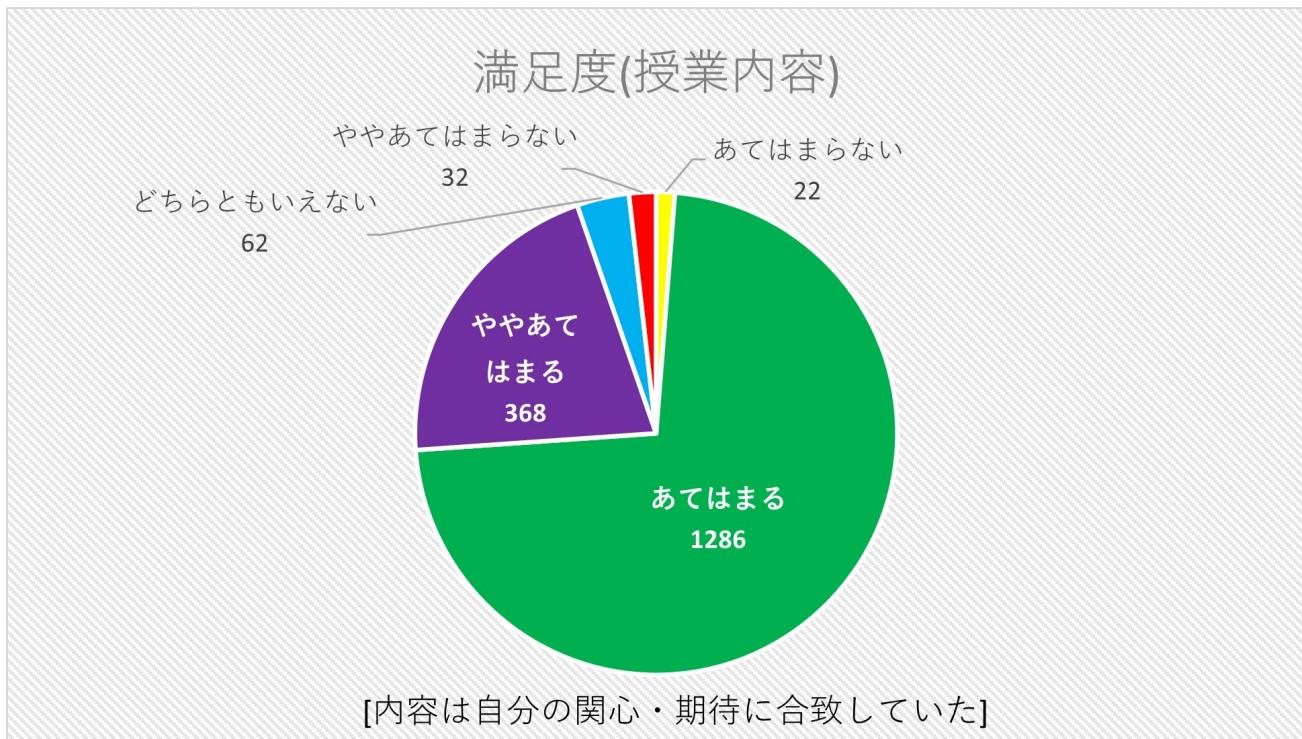
【分析4 本学のオープンアカデミーを選択した理由】

回答	回答数
オンラインで受講可能	1302
受講料の適正さ	1001
他では学べない言語の講座がある	882
講師の質の高さ	840
東京外国語大学の世間的評価	625
高度な教育に対する期待	583
他では学べない教養の講座がある	93
その他	50
合計	5376

「本学のオープンアカデミーを選択した理由」を問うアンケート（複数回答可）の集計結果は、次のとおりである。選択理由で一番多かったのは「オンラインで受講可能」で、1302件でした。今後も継続的に、社会人を中心に全国から受講者を集めるために、「オンライン開講」が必須条件であることがわかります。次いで「受講料の適正さ」が1001件となり、「オンライン開講」と同様に、受講者が講座・講師の質以上に、受けやすさや費用対効果を重視している結果が示されました。ただし、「他では学べない言語の講座がある」が882件、「講師の質の高さ」が840件と続いており、講座・講師の質向上がリピーターの増加につながると考えられます。

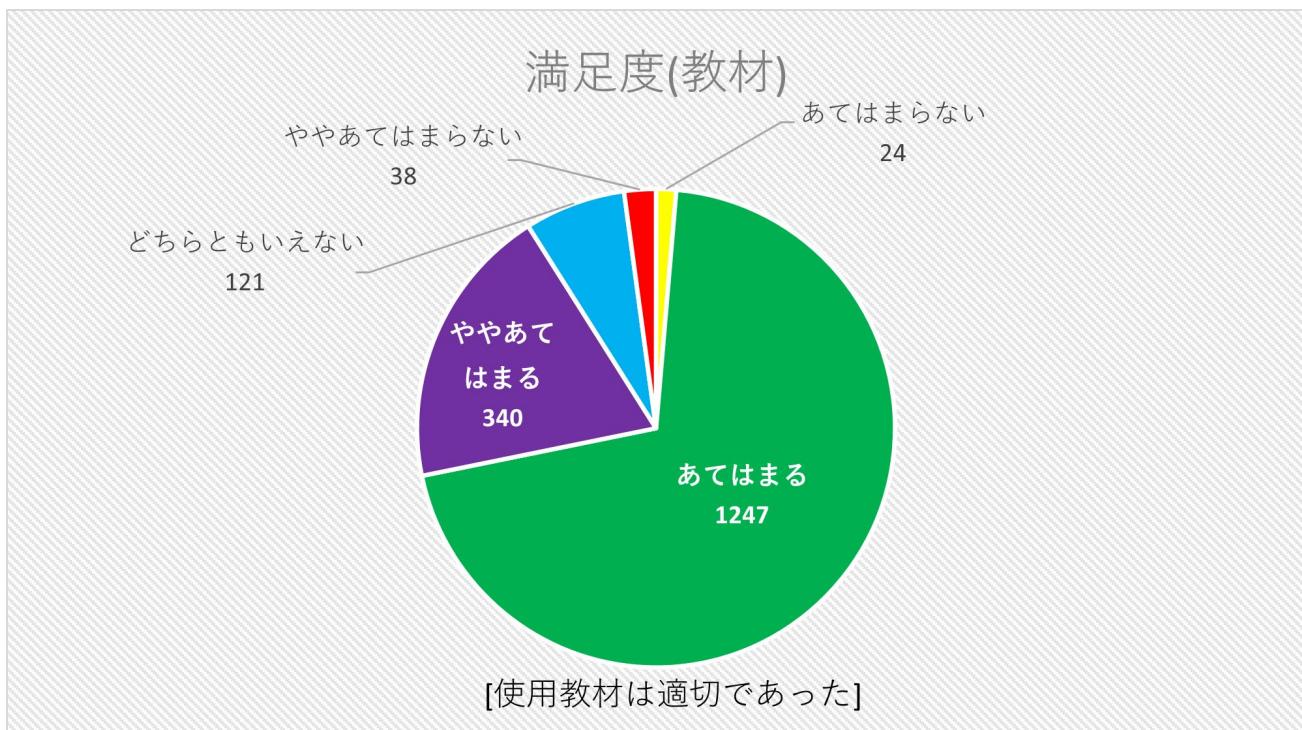
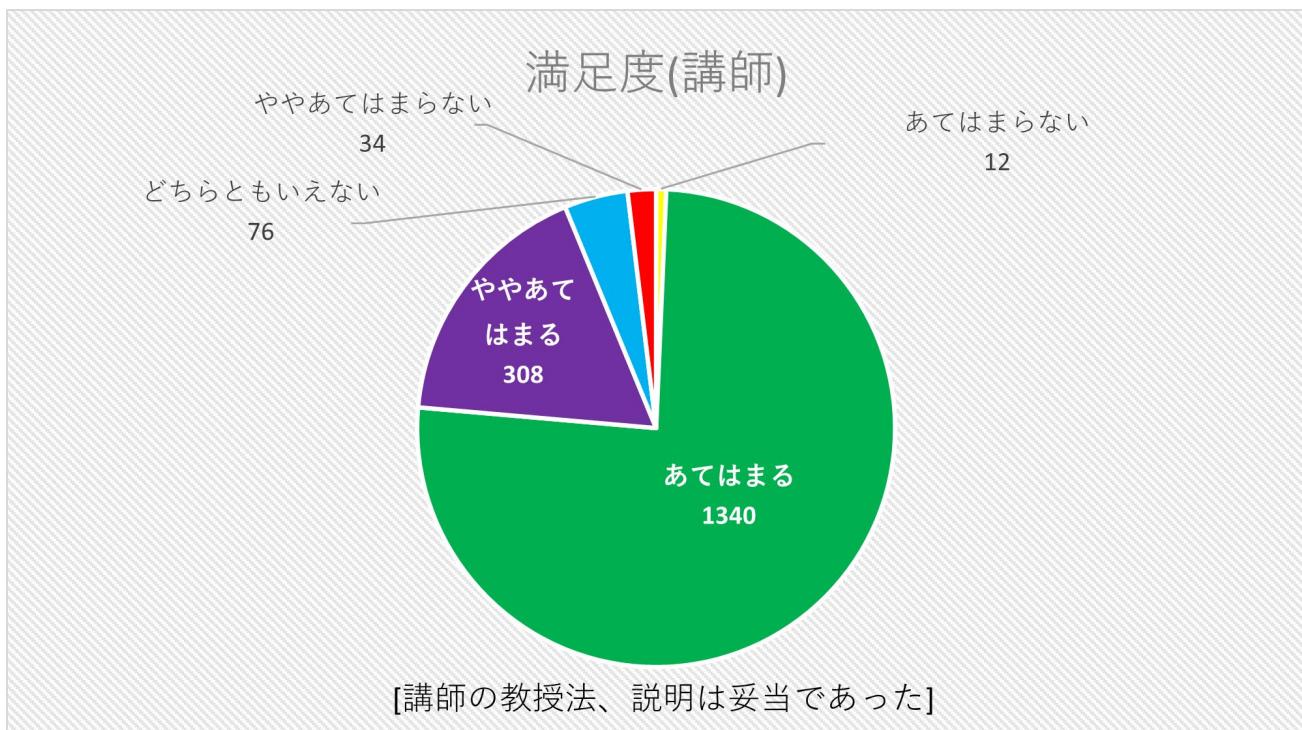
【分析5 満足度（授業内容）】

満足度 [内容は自分の関心・期待に合致していた]の集計結果は、次のとおりです。



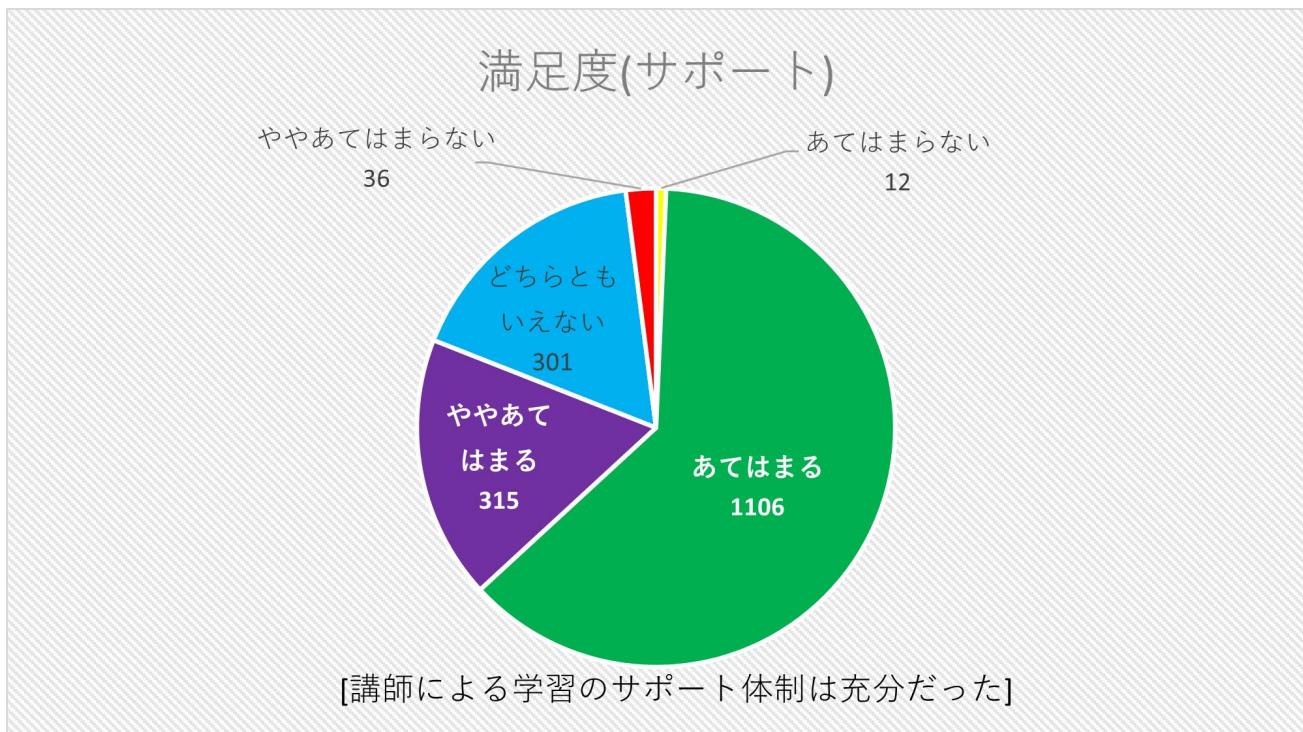
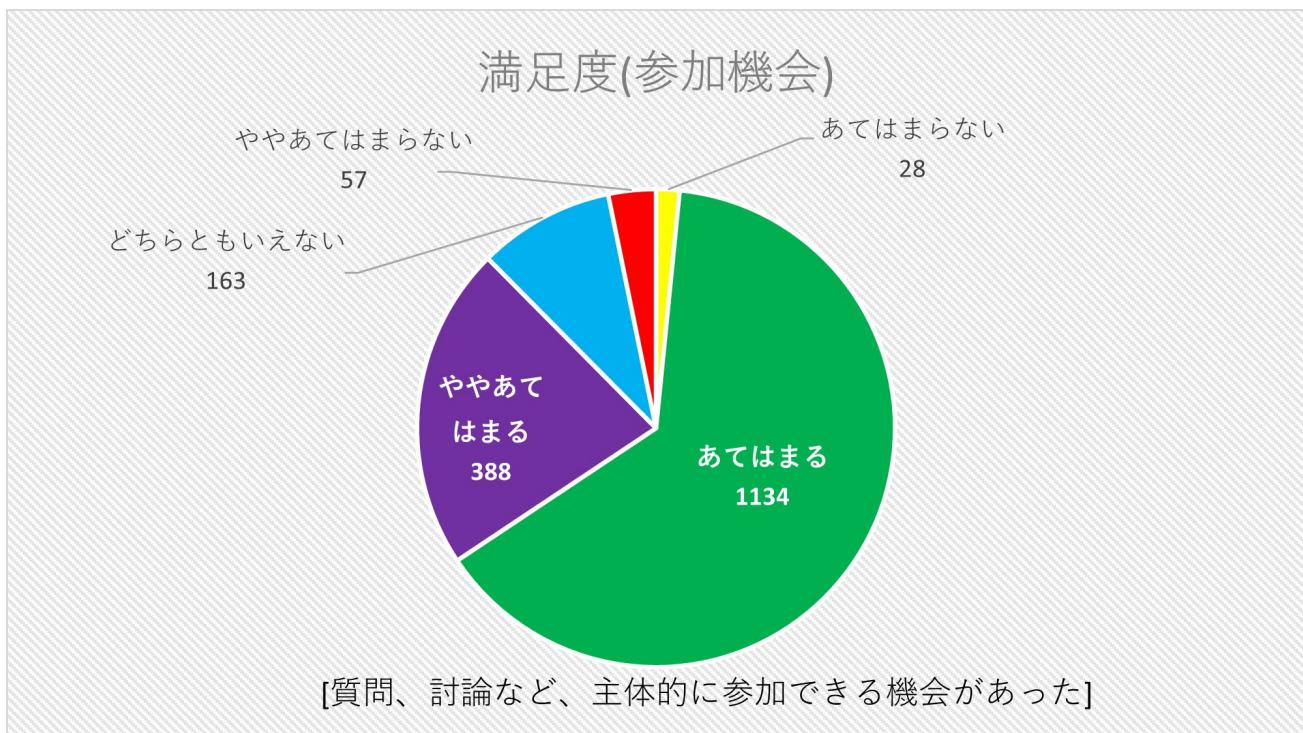
【分析6 満足度（講師、教材）】

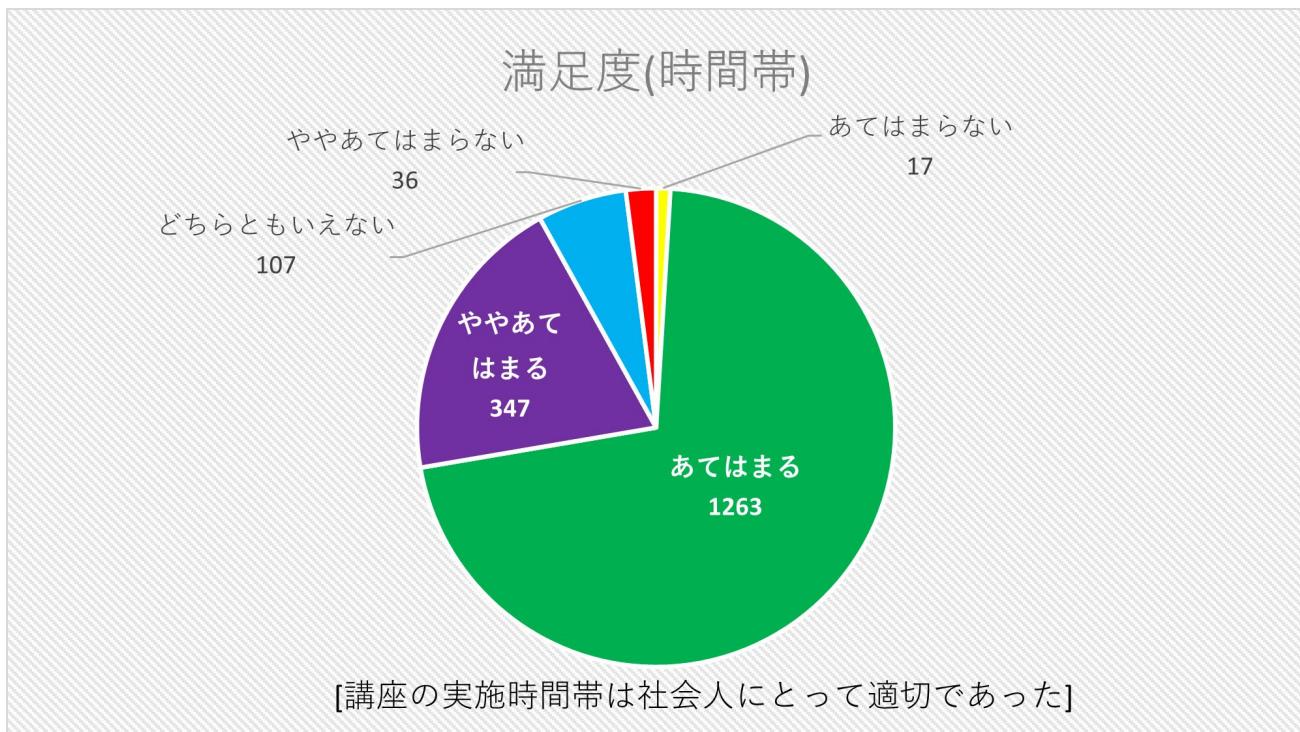
満足度 [講師の教授法、説明は妥当であった] [使用教材は適切であった]の集計結果は、次のとおりです。



【分析7 満足度（実施形態）】

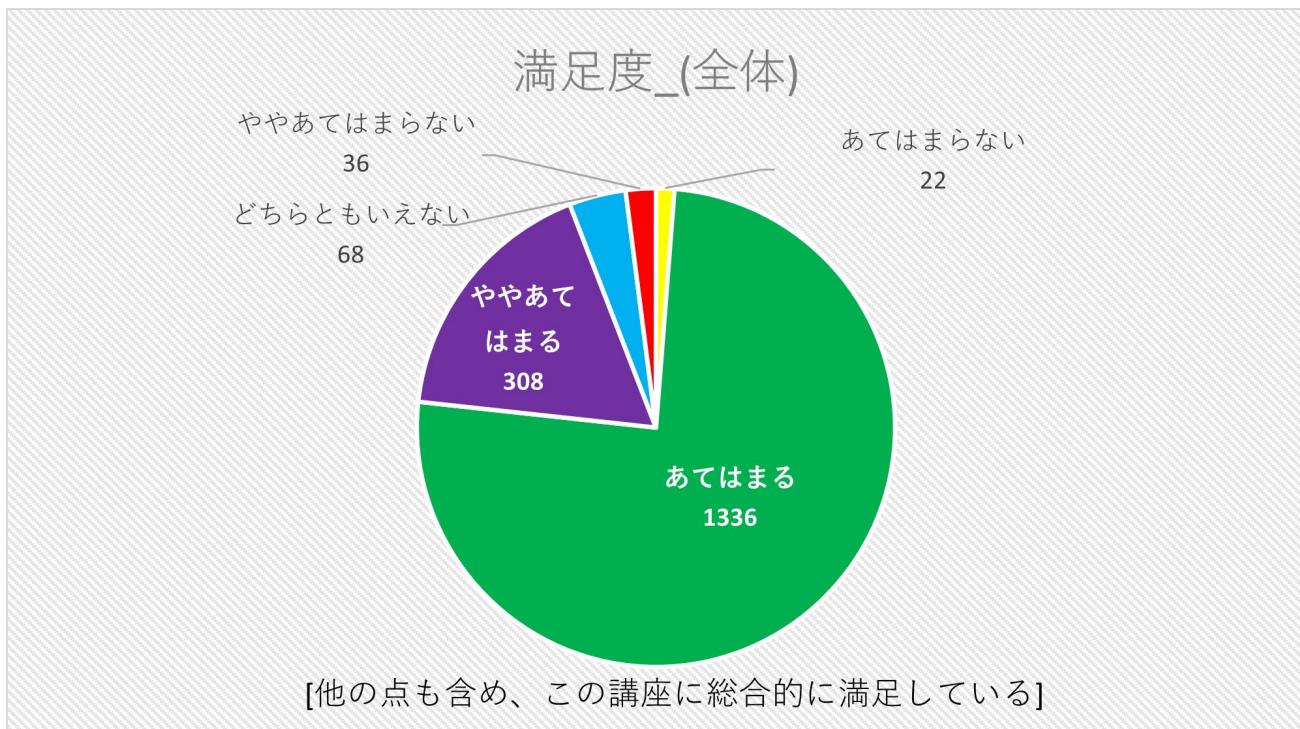
満足度 [質問、討論など、主体的に参加できる機会があった] [講師による学習のサポート体制は充分だった] [講座の実施時間帯は社会人にとって適切であった]の集計結果は、次のとおりです。





【分析8 満足度（全体）】

満足度 [他の点も含め、この講座に総合的に満足している]の集計結果は、次のとおりです。



オンライン日本語講座（OPJLC）

■事業概要

日本語を母語としない日本の大学で学ぶ学生・大学院生を対象に、2021 年春から日本語講座を無料で提供しています。受講生のレベルや学習スタイルに合わせて「ライブ型コース」と「オンデマンド教材型コース」のいずれかを選択して受講することができます。

■分析対象

2024 年度のオンライン日本語講座受講者

■分析項目

1. 講座数・受講者数
2. 居住地

■受講者分析

【分析 1 講座数・受講者数】

■2024 年度の講座数・言語数・受講者数（ ）内は 2023 年度

講座数	14(6)
受講者数	338(143)

2024 年度のオンライン日本語講座は、14 講座で開講し、受講者数は 338 名でした。2024 年度より、オンデマンド講座は新レベルとなる中級 1, 2 の 2 つのレベルの新設、およびスクーリング（ライブレッスン付き）のコース以外にスクーリングなしのコースを増設したため講座数が増加し、受講者数の増加につながりました。受講者数の増加は講座数の増加以外に 2023 度の受講者が 2024 年度も受講しているケースが見られ継続受講者数（リピーター）の増加が全体の受講者数の増加につながっています。

【分析2 居住地】

2024 年度のオンライン日本語講座の受講者の居住地は、次のとおりです。

■2024 年度夏(8~9月)

国名	人数
インド	1
インドネシア	1
ガーナ	2
タイ	1
タンザニア	1
タジキスタン	1
バングラデシュ	1
ブラジル	1
フランス	1
ベトナム	1
マレーシア	1
アメリカ	1
ルワンダ	3
モンテネグロ	1
ラオス	1
中国	3
日本	108
合計	129

■2024 年度春(2~3月)

国名	人数
インド	3
ウズベキスタン	1
エジプト	1
エチオピア	1
ザンビア	3
ソロモン諸島	1
台湾	1
タンザニア	3
中国	1
ドイツ	1
トンガ	1
ナイジェリア	2
ネパール	1
フィリピン	2
ブラジル	1
アメリカ	4
ベトナム	1
マーシャル諸島	1
マレーシア	1
日本	179
合計	209

TUFS Cinema

■事業概要

世界諸地域の社会・歴史・文化などの理解を深めることを目的に、映画の上映会を企画・運営しています。映画上映に加え、本学教員や専門家などによるトークセッションを行い、映像だけでは捉えることができなかった当該地域の歴史・文化・社会・宗教などの背景についても理解を深めることができるのが魅力です。2024年度は、17回の上映会を開催しました。

TUFS Cinema HP <https://www.tufts.ac.jp/tufscinema/>

■分析期間

2024年4月1日～2025年3月31日

■分析項目

- 曜日別平均申込者数
- 申込者数と来場者数
- 開催日が連続した場合の申込者数

■2024年度上映作品

2024年度に、TUFS Cinemaで上映した作品は次のとおりです。

実施日	曜日	開催時間	上映作品	制作国
4/20	土	14:00-17:00	マダム・イン・ニューヨーク	インド
4/27	土	13:00-16:00	チャンドマニ～モンゴル・ホーミーの源流へ	日本・モンゴル国
5/10	金	18:00-21:00	ガザ=ストロフ -パレスチナの吟(うた)	フランス・パレスチナ
5/12	日	13:30-17:00	クラ：西太平洋の遠洋航海者/女の島 トロブリアンド	日本
5/24	金	18:20-20:40	アズマリー声の饗宴—	日本
6/8	土	15:00-18:00	トレンガヌ・ドキュメンタリー2作品	マレーシア
6/15	土	14:00-16:15	「死の教室」Umarła klasa	ポーランド
6/23	日	17:20-20:20	ブレンダンとケルズの秘密	フランス・ベルギー・アイルランド合作

6/26	水	17:20-20:20	交差する声	フランス、ドイツ、 マリ
7/7	日	13:00-16:30	炎のアンダルシア	エジプト、フランス
7/21	日	13:30-17:00	少年と少女	台湾
10/5	土	14:00-17:30	スーパー30	インド
10/26	土	14:00-16:30	おらが村のツチノコ騒動記	日本
12/7	土	14:00-16:30	狼と羊	デンマーク、フラン ス、スウェーデン、 アフガニスタン
12/14	土	14:00-17:30	アジーズ先生	アフガニスタン
12/21	土	14:00-17:00	カーブルの孤児院	デンマーク、フラン ス、ルクセンブル グ、アフガニスタン
1/13	月	13:30-16:30	冬未来	香港（中国）

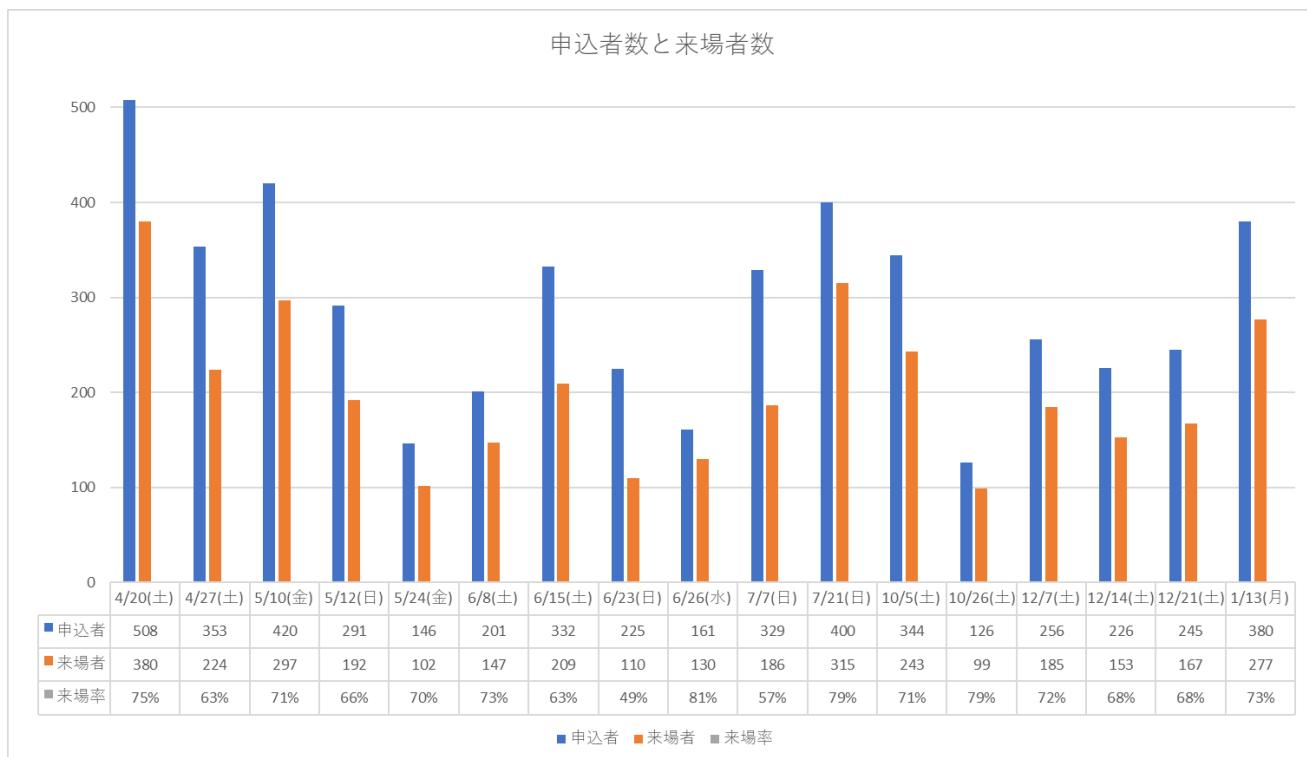
■分析結果

【分析1 曜日別平均申込者数】

開催日	開催日数	申込者数計	申込者数平均
月(祝)	1	161	161
水曜日	1	380	380
金曜日	2	566	283
土曜日	9	2591	288
日曜日	4	1245	311
合計	17	4943	291

2024 年度に TUFS Cinema は 17 回開催され、申込者数の合計は 4,943 名でした。申込者数の曜日別の平均をみると、月曜日が最も少ない 161 名で、水曜日が最も多い 380 名となっています。

【分析2 申込者数と来場者数】



全体の申込者数 4943 名中 3416 名が実際に来場されました。来場率は 69% でした。来場者数が最も多かったのは 4/20 (土) の 380 名、最も少なかったのは 10/26 (土) の 99 名でした。来場率が最も高かつたのが 6/26 (水) の 81%、最も低かつたのが 6/23 (日) の 49% でした。

多言語版・漢字学習アプリ「たふマルリン」

■事業概要

本学ウェブサイトのなかでも人気コンテンツであった「子ども向け教材」をアプリ化し、2023年3月にiOS版、アンドロイド版をリリースしました。小学校1年生から3年生に習う漢字を学習することができ、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、英語、ベンガル語、日本語の8言語で展開しています。

たふマルリン紹介ページ <https://www.tufs.ac.jp/visitors/materials/tufsmultiling.html>

■分析期間

2024年4月1日～2025年3月31日（App Storeからのダウンロードに限る）

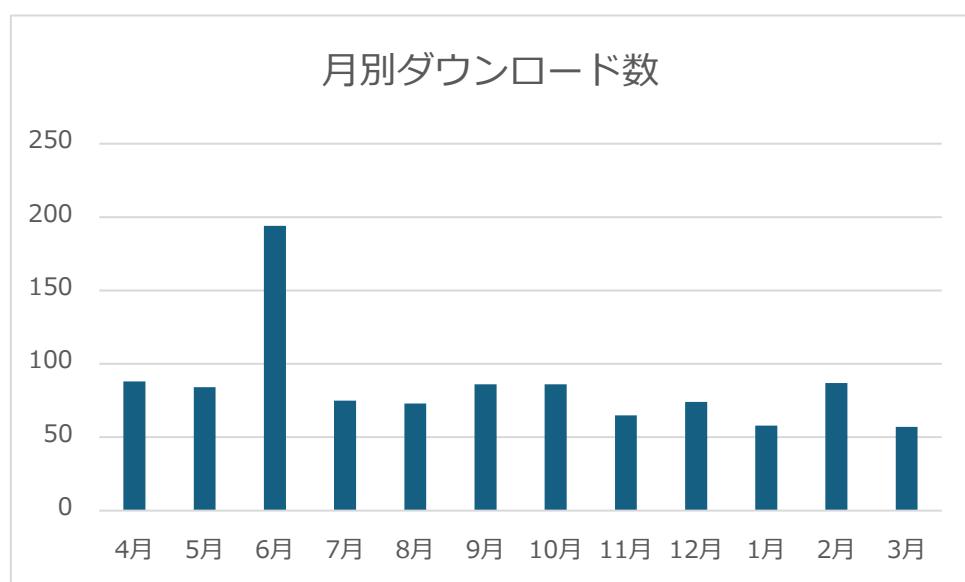
■分析項目

1. 月別ダウンロード数
2. 地域別ダウンロード数

■分析対象

データ上では52,532件のダウンロードが検出されていましたが、日平均3件程度のダウンロード数に対し、1,500件、50,005件のダウンロードが検出された日が（合計51,505件）ありました。これらの数値は確実性を担保できないため、「外れ値」として分析には含めないものとしました。その結果、分析対象のダウンロード数は1,027件となります。

【分析1 月別ダウンロード数】



当アプリは、年間を通じて安定した利用が見られ、日あたり平均3件程度のダウンロードがありました。大きな変動はなく、継続的に一定の関心を維持していることが分かります。

【分析2 地域別ダウンロード数】

(10件以上のダウンロードがあった国・地域)

国名	ダウンロード数
日本	754
アメリカ合衆国	52
ブラジル	24
イタリア	19
ベトナム	18
中国本土	17
タイ	12
フィリピン	10

(日本語学習者の多い国・地域)

国名	人数
中国	1,057,318
インドネシア	711,732
韓国	470,334
オーストラリア	415,348
タイ	183,957
ベトナム	169,582
米国	161,402
台湾	143,632
フィリピン	44,457
マレーシア	38,129

※出典：国際交流基金

「海外の日本語教育の現状 2021年度日本語教育機関調査」

2024年度は、47の国と地域からダウンロードがありました。10件以上のダウンロードがあった国・地域名は、上記のとおりです。日本国内からのダウンロード数は全体の約73%に達しています。国際交流基金「海外の日本語教育の現状 2021年度日本語教育機関調査」における「日本語学習者の多い国・地域」と比較すると、学習者の多い上位10位の国・地域のうち5カ国がダウンロードの多い国・地域に含まれています。第2位のアメリカでは50件を超えるダウンロードが記録されましたが、日本でのダウンロード数と比較すると依然少ない状況です。

言語文化センター事業

■事業概要

一定の言語能力がある本学卒業生等で組織した言語センターに、外国人支援や国際イベントのボランティアを紹介し、地域での活動経験の場を提供するとともに、大学の社会貢献の一環として、多文化共生に資することを目指しています。

言語文化センターHP <https://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/supporter.html>

■分析期間

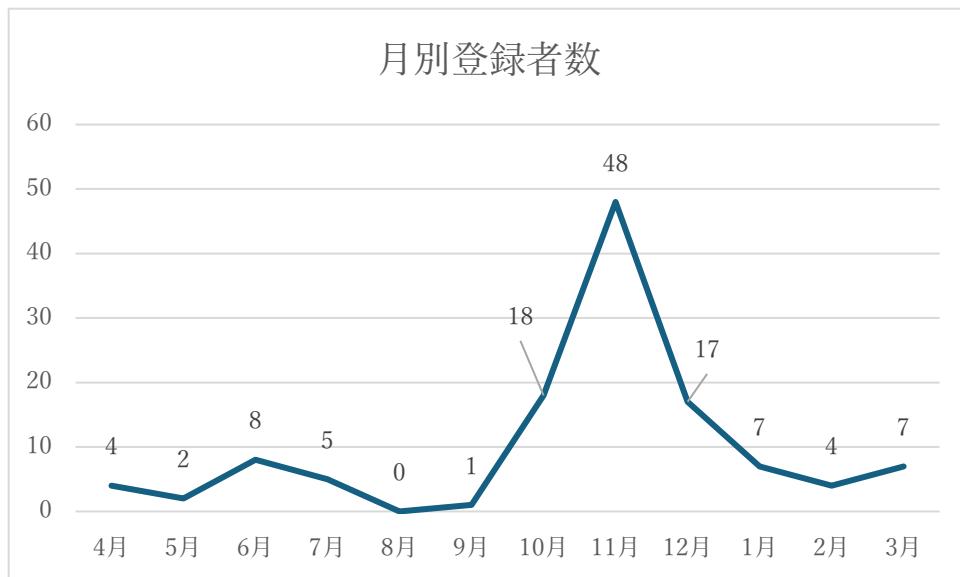
2024年4月1日～2025年3月31日

■分析項目

1. 月別登録者数の推移
2. 言語別登録者数と依頼案件の割合

■分析結果

【分析1 月別登録者数の推移】



2023年度末時点における言語文化センターの登録者数は859名、登録されている言語数は42言語でした。2024年度の1年間で121(217)名が新たに登録し、退会者3名を除くと最終的な登録者数は977名となりました。着実に登録者数、登録言語数が増加しています。

【分析2 言語別のセンターへの依頼率】

言語	登録者数	依頼人数※延べ人数	依頼率*
英語	419 (335)	15 (13)	4%
中国語	85 (71)	8 (4)	9%
スペイン語	80 (68)	1 (2)	1%
ロシア語	45 (37)	1 (-)	2%
ポルトガル語	38 (34)	3 (3)	8%
タガログ語	19 (14)	4 (7)	21%
ベトナム語	15 (12)	4 (1)	27%
ペルシア語	15 (14)	1 (-)	7%
モンゴル語	9 (8)	1 (1)	11%
ウズベク語	6 (4)	1 (-)	17%
ベンガル語	2 (1)	1 (-)	50%
ネパール語	1 (1)	1 (1)	100%

* 依頼率 (%) = 依頼人数/登録者数×100 () は昨年度の数字

2024 年度における言語文化センターへの依頼案件は 19 件で、依頼人数の合計は 41 名でした。言語別に登録者数と依頼人数の割合を算出した結果、タガログ語、ベトナム語への依頼率が高いことがわかります。登録者数が最も多い英語は、依頼人数が 15 名で依頼率は 4% にとどまっています。

依頼があった案件は、次のとおりです。

依頼番号	依頼元	業務内容	言語	募集人数	実施日
①	学内	インターフィップ通訳	英語	1	4/25,26
②	学内	文書翻訳	英語	2	4/16-24
			スペイン語	1	
			ポルトガル語	2	
③	学内	文書翻訳	タガログ語	1	5/1-6
④	小学校	学校生活での通訳	モンゴル語	1	5/27,29
					6/3,5,24
					7/8,17
					9/11,20
					10/9,30
					11/13,15,27 12/13
⑤	財団法人	日本語教室での通訳	ペルシア語	1*	6/26
⑥	学内	文書翻訳	英語	2	6/3-24
			ポルトガル語	1	

			タガログ語	1	
			ベトナム語	1	
⑦	社団法人	会議通訳	英語	1*	8/2
⑧	自治体	無料法律相談会通訳	中国語	1*	7/20
⑨	自治体	無料法律相談会通訳	英語	2	9/1
⑩	弁護士会	無料法律相談会通訳	ロシア語	1	9/6
⑪	弁護士会	無料法律相談会通訳	英語語	2	9/12
			中国語	1	
			ウズベク語	1*	
⑫	中学校	授業内通訳	タガログ語	1	9/27
⑬	社団法人	無料法律相談会通訳	英語	1*	9/28
			中国語	2	
			タガログ語	1	
			ベトナム語	1	
			ネパール語	1*	
⑭	学内	文書翻訳	中国語	1	9/30
⑮	弁護士会	無料法律相談会通訳	英語	2	11/29
			中国語	1	
⑯	自治体	表敬訪問通訳	中国語	1	1/22
⑰	消防署	文章チェック	ベンガル語	1*	1/20
⑱	弁護士会	無料法律相談会通訳	英語	2	2/3
			中国語	1	
⑲	弁護士会	無料法律相談会通訳	ベトナム語	2	2/7,2/14

* 言語サポートからの応募がなかった案件

外部機関との連携事業

■分析期間

2024年4月1日～2025年3月31日

■分析項目

- 連携協定等締結機関と連携事業

■分析結果

【分析1 連携協定等締結機関と連携事業】

2024年度末時点で、社会連携事業の推進等を目的とし本学と連携協定等を締結している機関は次のとおりです。2024年度は、「日本郵政株式会社」「出雲市」「むさしの学園小学校」「公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジパラ競技大会組織員会」の4つの機関と新たに協定等を締結しました。

区分	機関名	締結日	協定等名	主な連携事業
自治体	府中市	2006/9/13	協働・連携に関する相互友好協定	連携講座、外国人市民向け生活便利帳の作成
自治体	調布市	2006/11/2	相互友好協力協定	講演会等への講師派遣
自治体	三鷹市	2020/2/13	包括的な連携協力に関する協定書	講座等への講師派遣
自治体	府中市美術館	2019/9/30	連携協力に関する協定	常設展・企画展の無料観覧
自治体	山形県4市町 (寒河江市、高畠町、白鷹町、飯豊町)	2018/5/29	相互協力協定	地域活性化のためのスタディツアーア
自治体	山形県	2019/2/20	国際化の推進に関する相互協力協定	地域活性化のためのスタディツアーア
自治体	山形市	2023/5/12	相互協力協定	地域活性化のためのスタディツアーア
自治体	出雲市	2024/12/3	相互協力協定	共同研究等
企業	株式会社ファーストライティング	2019/3/1	業務委託基本契約	新卒外国人従業員向け日本語研修 海外大学向け日本言語・文化研修

企業	東京書籍株式会社	2023/10/26	日本語指導が必要な児童生徒向け教科用図書リライト教材の活用に向けた共同実証研究に関する協定	日本語指導が必要な児童生徒向け教科用図書リライト教材の制作
企業	三井物産株式会社	2023/11/15	業務委託基本契約	日本人従業員向けロシア語研修 多言語レベルチェックテスト作成
企業	日本郵政株式会社	2024/4/1	連携協力に関する協定	本学陸上部との合同練習
公的法人	独立行政法人国際協力機構	2022/11/29	JICA 海外協力隊派遣に関する覚書	ヨルダン日本語教育隊員派遣事業
学校法人	学校法人武蔵野学園 むさしの学園小学校	2025/2/27	教育交流協力に関する覚書	出張講義、イベントへの参加

区分	機関名	締結日	協定等名	主な連携事業
公益財団法人	公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会	2025/3/3 ※期限付き	公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会と全国外大連合との連携・協力に関する協定書	学生ボランティアの募集 ※全国外大連合との協定

委託事業や教育プログラムなどの当初から予定されていた事業以外で、外部機関と実施した連携事業は次のとおりです。

依頼元	依頼機関	簡単な業務内容	実施日
府中市	府中第二中学校	留学生による授業	1/28
府中市	府中市生涯学習センター	連携講座	1/18, 1/19
立川市	立川国際中等教育附属小学校	留学生による授業	9-3月

多文化共生活動助成事業

■事業概要

世界のさまざまな地域の社会や文化への理解を促進することが不可欠となっている中、多言語多文化共生センターでは教員が異文化や異なる社会の相互理解を深めるために実施する活動を支援しています。

■分析対象

2024 年度助成事業 2 件

■分析項目

1. 助成事業一覧と活動結果

■分析結果

【分析 1 助成事業一覧と活動結果】

2024 年度は「TUFS 多文化共生活動」助成事業として、次の事業へ助成を行いました。

助成事業	実施期間	活動内容（参加者数）	メディア報道
① 日本の大学で学ぶ留学生の日本での就職に関するラウンドテーブルの開催	2024/11/24	教員による研究発表 元留学生、在籍留学生による意見交換 (参加者数 29 名)	-
② 第 3 回 アラビア語朗読コンテスト	2024/12/14	コンテスト主催 (参加者 27 名)	-

①は大学祭実施期間中に実施され、本学留学生だけでなく、教員や外部学生など多種多様な方々の参加があり、活発な意見交換が行われました。ここ数年、留学生の日本での就職希望者は増加傾向にあり、今後、日本特有の就活システムへの理解、学生の志向と企業側のニーズのマッチングなど、就職支援方法を検討するうえで有意義な機会となりました。

②のコンテストは、参加者は限定的ではありましたが、本学の学生のほか他大の学生、高校生などが参加し、アラブ世界の著名な詩を朗読するだけでなく、各国大使館員との交流を通して、アラブ文化への知識や理解を深める絶好の機会となりました。

①②ともに本学の活動を学外に広くアピールすることに成功しており、助成の意義を十分に示すことができました。

アラムナイ事業（同窓生情報システム）

■事業概要

東京外国語大学では、卒業生の皆さまとのつながりを大切にし、同窓生ネットワークの充実を図っています。その一環として、同窓生データベースへの登録をお願いしています。ご登録いただくことで、大学からの最新情報やイベント案内、同窓生向けの企画などをお届けすることができます。また、世代や分野を超えた交流のきっかけにもつながります。

■分析期間

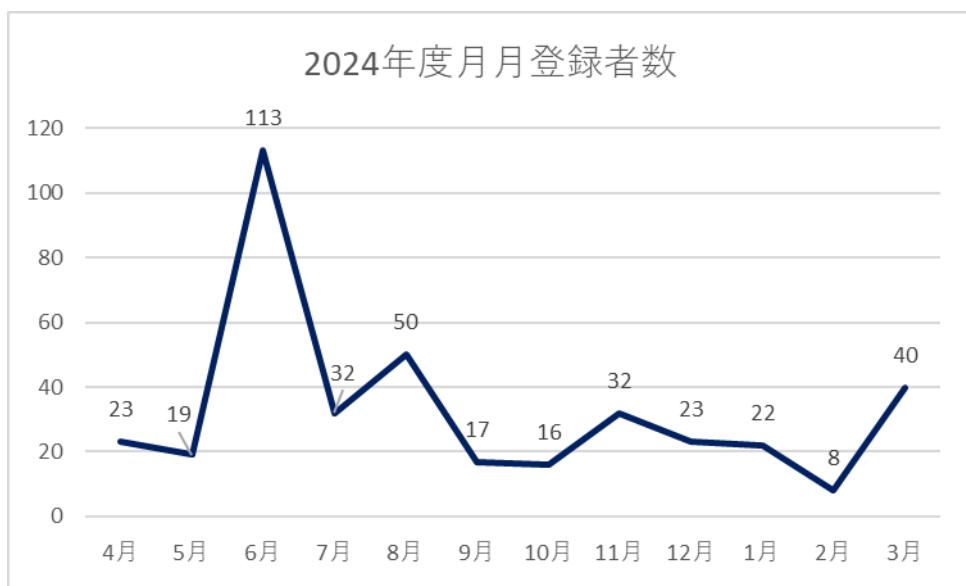
2024年4月1日～2025年3月31日

■分析項目

1. 月別の登録者数（2024年度）の推移
2. 入学年度卒業年度別登録者数（学部卒業生）
3. 専攻言語別登録者数

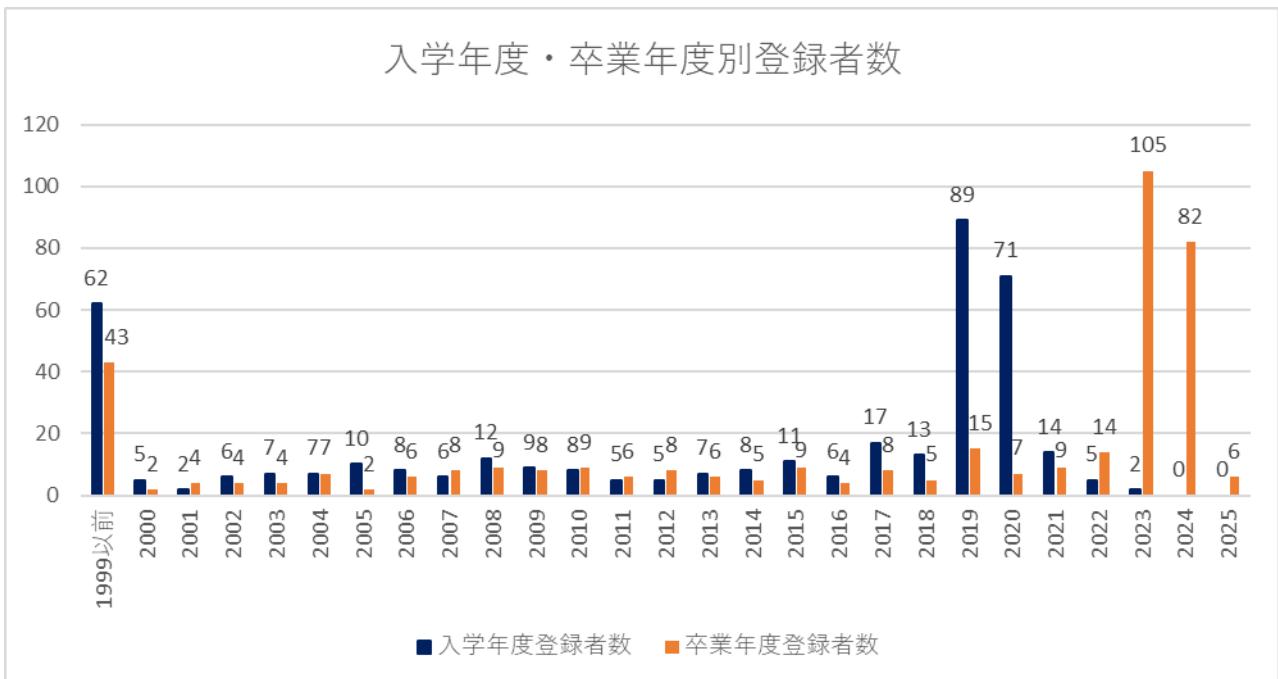
■分析結果

【分析1 月別の登録者数（2024年度）の推移】



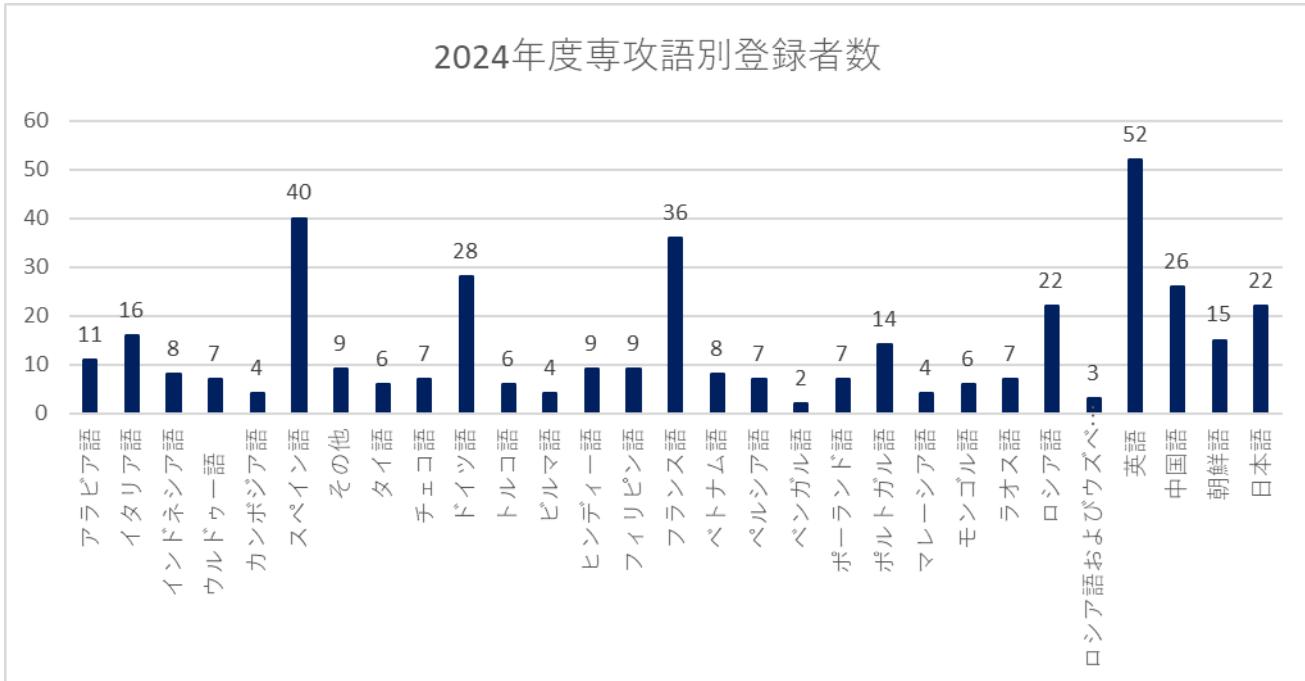
登録者数は6月（113名）が最も多く、次いで8月（50名）、3月（40名）と多い傾向でした。2024年度合計で395名の方が登録されました。

【分析2 入学年度卒業年度別登録者数（学部卒業生）】



登録者数は2023年度卒業者の登録（105名）が最も多く、次いで2019年度入学者（89名）、2024年度入学者（82名）と多い傾向でした。

【分析3 専攻言語別登録者数】



登録者数は英語（52名）が最も多く、次いでスペイン語（40名）、フランス語（36名）と多い傾向でした。

体育施設の外部貸出し

■事業概要

地域住民の皆様のスポーツを通じた健康な生活の一助となるよう、学内の授業、行事、学生団体の活動に支障をきたさない範囲で、2024年4月より体育施設の貸出しを開始いたしました。2024年10月からは、新たに人工芝グラウンドの貸出しを開始しました。

■利用実績

2024年度合計2件

貸出施設	利用実績
テニスコート	0件
人工芝グラウンド	2件